

「現代写真の4つの源流展」

—その珠玉の12枚—



立木義浩 ファッション写真



ムトー清次 映画スター写真



与田弘志 パーソナル・オブザベーション (スティル写真)



桑原史成 報道写真

会場：ギャラリー イー・エム 西麻布
会期：2017年5月2日(火)～5月27日(土)
時間：12:00～18:00(日・月曜日休館) 入場無料
住所：東京都港区西麻布4-17-10
電話：03-3407-5075
http://www.takeuchi-studio.jp/gallery_em/

作品内容

この展覧会の4人の写真家は、それぞれのジャンルで、芸術におもねったりしないで、自信と誇りを持って、「写真は、写真である」という立場を離れない。

最近のハリウッド映画、米国製のTVドラマにでてくる家の壁には、ポップ調絵画ではなく、ほとんどが古いモノクロ写真が飾られている。

早く、日本の壁にも、銀塩プリントのモノクロ写真という時代になって欲しい。その最初の1枚目は、本能的に永遠というものを表現できるのは写真だけだ、と知っている立木義浩、桑原史成、ムトー清次、与田弘志の歴史的傑作作品にちがいない。

30年前、40年前、50年前に発表された、この4人の作品を見ていなくても、現在、写真を撮る人、スマートフォンを手にする人々は、4人の感覚を追いかけることになる。写真共有アプリ、インスタグラムを見れば一目瞭然だ。

そこが“写真力”の不思議なところだ。それは写真機が出現した時から、写真は、霊的な伝染性を持ち、現代も日々、そのチカラ=影響力を拡大し続けて、“現代人間社会の最大の推進力”となっていることをあきらかにしている。

それは人類には、すこしでも永遠に近づきたいという欲望が、常にひそんでいるから……。